取付説明書

ソレスタ-M

1. 取付前の注意

●取付けに際しては必ずこの取付説明書に従い正しく取り付けてください。
※この取付説明書に記載されていない方法で取り付けされ、それが原因で故障を生じた場合は、商品の保証を致しかねますので十分ご注意ください。
※水栓金具については、それぞれ付属の取付説明書に従い正しく取り付けてください。
●「保証書（取扱説明書裏表紙）」は貴店名、取付日を忘れずに記入の上、必ずお客さまにお渡しください。
●取付業者様は、商品に欠陥を生じさせる可能性を有しているゆえに、取付業者様が欠陥を生じさせた場合は過失責任を負うことを十分にご認識いただき、お客さまが安全で快適にご使用できるようにご協力ください。
●付属部品の内容と数量が合っていることを確認してください。

安全のために必ずお守りください

ここでは取付けに際して守らないと人身事故や、家財の損害に結びつく注意事項を挙げています。取付前にこの項目をよくお読みいただき、正しく取り付けてください。

用語および記号の説明

⚠**警告**‥ 取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険な状態が生じることが想定されます。

⚠**注意**‥ 取扱いを誤った場合に、使用者が重傷を負うかまたは物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。

⚠ ‥‥‥「注意しなさい」

🚫 ‥‥‥「してはいけません」

🚫 ‥‥‥「分解してはいけません」

❗ ‥‥‥「指示通りにしなさい」

⚠ 警告

🚫 **ストーブやヒーターなど熱を発生するものの近くに設置しないでください。**
変色や変形、火災をおこすおそれがあります。

🚫 **修理技術者以外の人は絶対に分解したり修理・改造は行わないでください。**
ケガや故障が生じるおそれがあります。

❗ **ベースキャビネットや、周辺キャビネットの取付けは、建築壁の構造を確かめて正しく取付ける。**
大工工事(取付下地) 取付・設置

❗ **電気・水道工事は関連する法令、規定に従って必ず「有資格者」がおこなう。**
接続や配管が不完全な場合は、発煙や火災、漏電や漏水の原因になります。

❗ **建設工事（電気工事・管工事・大工工事・建具工事）は、関連する法令、法規に従って、必ず「有資格者」がおこなう。**
守らない場合は、法令に違反します。

❗ **ベースキャビネットの設置は、建築床の構造を確かめて正しく取付ける。**
床がたわんだり、床が損傷するおそれがあります。

お願い

●**直射日光が当たる場合は必ずカーテンなどでさえぎってください。また、スポット照明や殺菌灯を直接当てないでください。**
※変色や変形の原因になります。

●**取付壁面の不陸が5㎜／2mを越える場合は必ず壁を施工しなおしてください。**
※不陸があるまま取り付けるとキャビネットがひずむ場合があります。

●**洗面器表面は傷付きやすいので次の点について注意して作業してください。**
・キャビネットや工具などの固い物を洗面器上に落としたり、乗せてひきずったりしないでください。
・洗面器上に乗らないでください。
※洗面器に傷が付くと補修しても完全に元の状態には戻りません。

●**酸性、アルカリ性および塩素系の洗剤類、ベンジン、シンナー、ラッカー、アルコール等の溶剤や油類を使用して本体をふかないでください。**
※変色や変形のおそれがあります。

●**壁面工事や建築仕上げ工事に使われる溶剤・接着剤・洗剤・その他の薬品類は、容器などに記載の注意事項にしたがってお使いください。人体に影響が出たり、使用部材の損害や劣化の原因になります。**

●**排水栓に磁石を使用しています。**
・心臓ペースメーカーなどの電子医療機器を装着した人に排水栓を近づけないでください。安全性の確認については電子医療機器の取扱説明書をご覧ください。
・排水栓を磁気カードなどの磁気記録媒体に近づけると、データが破壊されて使用できなくなるおそれがあります。また、精密電子機器に近づけると故障の原因になる可能性があります。

⚠ 注意

🚫 **この説明書に記載されている以外の壁仕様（ALC壁等）の場合は必ず壁を施工しなおしてください。**
キャビネットの取付強度が保てず落下するおそれがあります。

🚫 **温水を逆に配管しないでください。**
水を出そうとしても、湯が出てヤケドをすることがあります。

🚫 **浴室内などの高温多湿な場所や水が浸る可能性がある床面には設置しないでください。**
木部が水を含んで腐ったり、漏電や感電のおそれがあります。

⚠ 注意

❗ **電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず先端の電源プラグを持って引き抜いてください。**
感電やショートして発火することがあります。

❗ **電源は必ず専用のコンセントからお取りください。また、コード類を束ねたまま使用しないでください。**
発熱のおそれがあります。

❗ **取付中に、カウンターの上に乗らない。**
キャビネットがこわれたり、落ちてケガをするおそれがあります。 取付・設置

❗ **排水パイプはU字型に曲げたり、折曲げて取付けない。**
使用中に排水パイプがつまり、ボウルから水があふれて、床を汚すおそれがあります。 管工事

❗ **引出しを開けた時に鏡板が建築物側の枠材などに当たらないよう、クリアランスをとる。**
クリアランスを十分とらないと引出しを開けた時に鏡板がドア縁や巾木に当たるおそれがあります。引出しタイプで建築側の額縁などに当たる場合はフィラーやエンドパネルを使ってクリアランスをとってください。 取付・設置

❗ **キャビネットを引きずらない。**
床を傷つけたり、キャビネットが破損するおそれがあります。

❗ **ドライバーなどの工具を洗面ボウルに落としたり、硬いものをぶつけたりしないように注意する。**
取付・設置

❗ **取付完了後は、扉の傾き・ガタつき・ヒンジのゆるみがないことを必ず確認する。**
使用中に扉が落下して、ケガをするおそれがあります。 取付・設置

❗ **水栓の取付けは必ず取付方法を守る。**
水栓に取付けを誤ると水や湯が漏れ、損害が出るおそれがあります。 管工事 取付・設置

❗ **取付け・仕上げ作業に使われる溶剤・接着剤・洗剤・その他薬品類については、容器などに記載の注意事項に従う。**
正しく使わないと人体に影響が出たり、使用部材の破損や、劣化の原因になります。 取付・設置

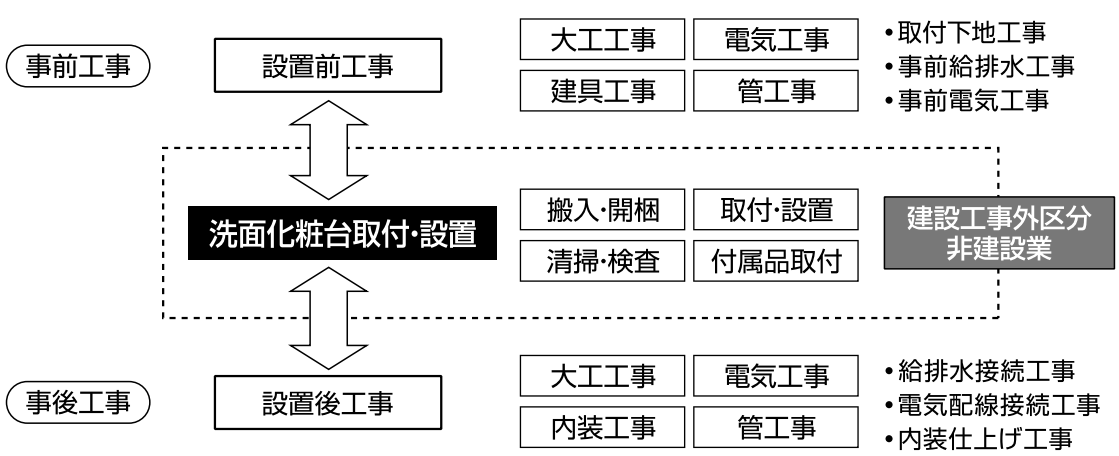
❗ **排水器具・排水ホースの取付けおよび給排水管の接続部分のシールは、説明書どおり正しくおこなう。**
水が漏れたり、湿気が上がり床などが腐るおそれがあります。不快な臭いや、カビの発生原因になることがあります。 管工事

■工事区分

■「洗面化粧台の取付・設置」とユニット工事区分

⚠ 警 告

本説明書は、洗面化粧台の本体組立・設置と関連工事（建設工事）である大工工事、電気工事、管工事(給排水)、建具工事などと区別して説明しています。
建設工事は、関連する法令・規定に従って法的有資格者による工事が必要になります。
流通業者様(販売店様など)からの発注で下請けとして「本体の取付・設置」をおこなう場合は、建設工事部分と「洗面化粧台本体取付・設置」を区別しておこなってください。

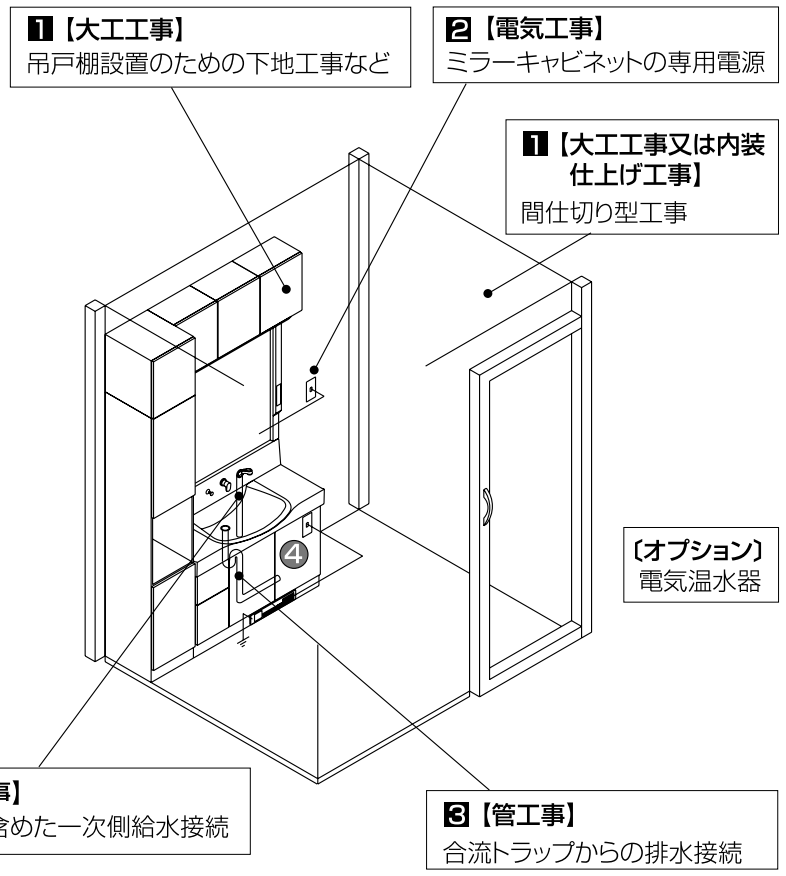


株式会社 LIXIL
お客さま相談センター商品相談窓口　ナビダイヤル　☎0570-01-7173
平日「9:00～18:00」対応　土日・祝日「9:00～17:00」対応（ゴールデンウィーク・年末年始・夏期休暇は除く）
※ナビダイヤルは、PHS・IP電話などはご利用できません。☎0562-31-0793をご利用ください。

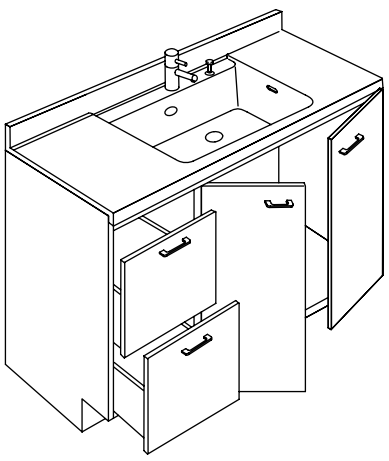
7199098 Z1ベーストリツケセツメイショ

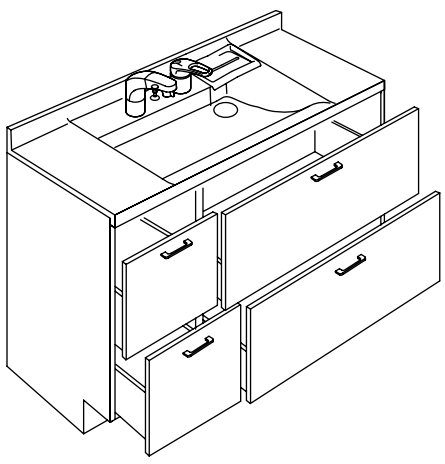
■洗面化粧台の工事区分〈例示〉

ユニット工事区分	部位(図)	区分	作業名称(区分)	建設業区分 大工工事業	建設業区分 管工事業	建設業区分 電気工事業	建設業外 洗面化粧台取付	作業内容
事前工事 建設業	1	大工工事	建築壁の下地処理工事	□				キャビネットなどの取付けの為の壁下地処理工事
	2	電気工事	ミラーキャビネットの電源工事			□		ミラーキャビネットの専用電源工事
	3	管工事	排水配管の立上工事		□			洗面化粧台排水用の所定位置排水管立上工事
			給水・給湯配管立上工事		□			洗面化粧台専用の所定位置配管立上工事
洗面化粧台本体 取付・設置	④	建設工事区分外	製品間のシリコーン塗布				○	製品間の隙間を仕上げる処理工事
			ウォールキャビネット取付け				○	所定の建築仕上げ壁へ取付ける作業
			ミラーキャビネット取付け				○	所定の建築仕上げ壁へ取付ける作業
			ベースキャビネットの取付け				○	キャビネットの組立・調整して設置する作業
			洗面化粧台排水部品の組立				○	排水トラップ部品の組立
			水栓の組立、天板取付け				○	水栓同梱部材の組立(カウンターへの取付け)
			ビルトイン機器の取付け				○	ビルトイン機器の洗面化粧台本体への組込み作業
			試運転、完成品検査				○	完成後の性能確認検査
事後工事 建設業	2	電気工事	電気配線器具の取付け			□		スイッチ、コンセント等の電気配線工事
			その他電化機器の工事			□		電化機器と電源線、アースの接続工事
	3	管工事	給水・給湯配管と水栓の接続		□			給水・給湯の一次側と水栓の接続、検査
			建築側排水管への接続工事		□			洗面化粧台排水管と建築排水管の接続、検査



2. 付属部品





◆カウンター

水栓金具	1セット
水受けタンクセット ※シャワー水栓の場合のみ	タンク1個、クリップ2個
排水器具セット	1セット
排水横引き管	1個
排水トラップ	1個
ポップアップ排水栓セット	1セット
排水アダプター	1個
スポンジテープ	6本(LJカウンターの場合)
石けんトレイ	1個(LJカウンターの場合)

◆ベースキャビネット

仕様	ベースキャビ[800～1400]	サイドキャビ[300～400]
壁面固定用ねじ(大皿フレキTPφ5.3×60)	4本	4本
カウンター固定用ねじ(トラスTPφ4.0×16mm)	4本	4本
キャビネット連結用ねじ(大皿フレキTPφ5.3×27)	−	4本
カウンター受けスポンジ	1セット	1セット
カウンター受け材	2本	−

3. 取付前の確認

1. 給水、給湯の確認

給水・給湯の条件、水栓金具の設置条件は水栓金具付属の取付説明書をご覧ください。

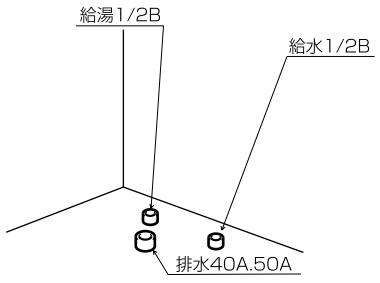
2. 配管工事の確認

給水・給湯管および排水管が所定の位置に指定の給排水管仕様で取り出してあるか確認してください。

⚠ 注意

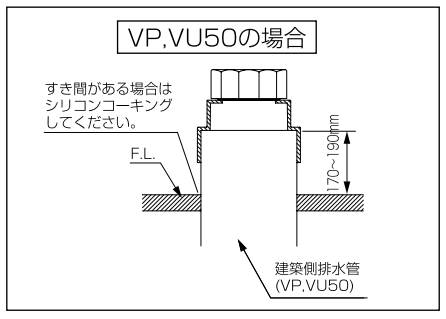
湯水を逆に配管しないでください。

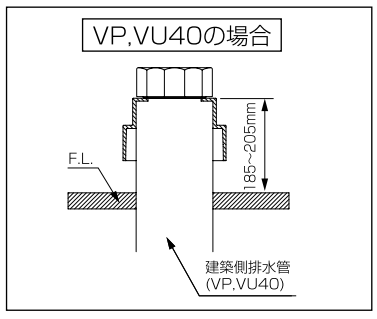
※水を出そうとしても、湯が出てヤケドをすることがあります。



●給水、給湯管の取出位置および仕様は承認図面をご参照ください。

●床排水は下図のとおり取り出してください。





⚠ 注意

建築側排水(VP・VU管)は必ず指定の取出寸法範囲内で取り出してください。

※取出寸法が短いと、排水トラップと接続できず、漏水を引きおこす恐れがあります。

3. 壁面工事の確認

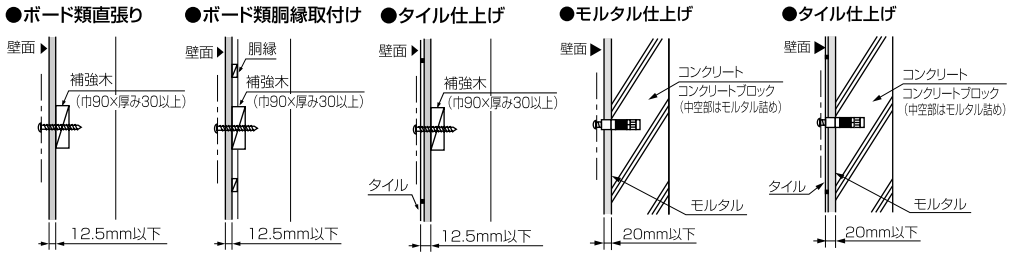
〔壁材、下地材の確認〕

●キャビネットを取付可能な壁面は下図に示す
（1）乾式壁3種　（2）湿式壁2種　の全5種類のみです。

〔補強木、仕上げ材の厚みの確認〕

●キャビネットの取付けには、乾式壁の場合、補強木（幅90mm×厚み30mm以上）が壁面の指定の位置（寸法図参照）に必ず必要です。あらかじめ建築取付の際に補強木を設けてください。壁仕上材のみ（補強木なし）の位置にキャビネットを取り付けないでください。
●補強木の柱や、間柱への取付部材（ねじ等）は、キャビネットの固定強度（乾式壁の図を参照）と同等以上になるように種類、数を選定してください。
●乾式壁の場合、補強木手前の仕上材は壁固定ねじを補強木に届かせるため必ずトータルの厚みで12.5mm以下のものを用いてください。
●湿式壁の場合は、AYボルトをコンクリートに届かせるため、モルタル、タイルの仕上げはトータルの厚みで20mm以下としてください。また、壁本体がコンクリートブロックの場合は、中空部をモルタル詰めにしてください。

（1）乾式壁　　（2）湿式壁



※壁本体がコンクリートブロックの場合は、中空部はモルタル詰めしてください。
※AYボルト品番：KB-4X60T（AY）（丸頭⊕ボルトφ4×60mm、2本入り）
の取付け穴は、穴径7.5mm、穴深さ60mm以上です。

4. 床面の確認

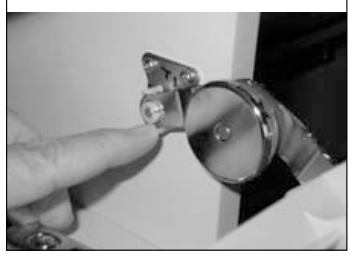
●設置する床は水平で著しい凹凸や不陸がないことを確認してください。
●床面は強固でグラつき、たわみが生じないことを確認してください。
※キャビネットがグラついたり、取付精度（納まり）が悪くなる恐れがあります。

お願い
〔壁の不陸について〕
●不陸が5mm/2mを超える場合は、必ず壁を取付しなおしてください。
（キャビネットを壁に当て、壁とのすき間が5mm以下であることを確認してください。）

4. スマートポケットの取外し

キャビネットの設置作業前にスマートポケットを取外してください。
引出しの取付け・取外しは【引出しの調整】の項をご確認ください。
スマートポケットの取外しは下図の要領でおこない、取付けはこの逆の手順でおこなってください。

①ステーの座の爪を押し広げる



②アームステーをピンから抜く

③スライドヒンジを外す

④スマートポケットを取外す

※①、②の手順時は扉が開ききらないように扉を支えながら行ってください。

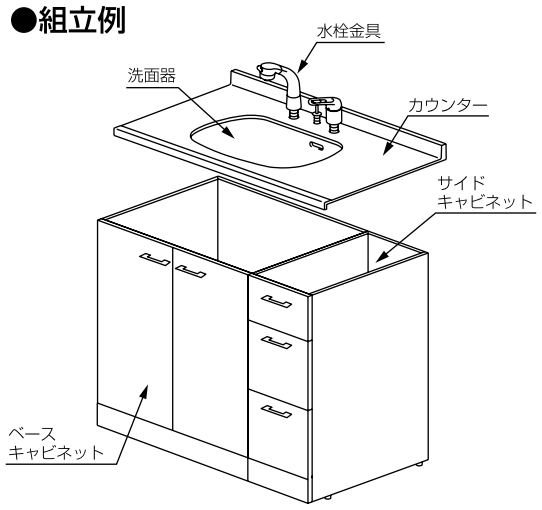
5. 取付け方法

5-1. ベースキャビネットの設置

●乾式壁の場合は付属ねじをご使用ください。
●湿式壁の場合は、別途手配のAYボルト（KB-4×60T（AY）をご使用ください。
※AYボルトは壁にφ7.5の下穴を電動ドリルを使用して正確にあけ、切粉をよく取り除きご使用ください。

お願い
●扉の表面に養成シートが貼ってある扉は取付完了まで養成シートをはがさないでください。

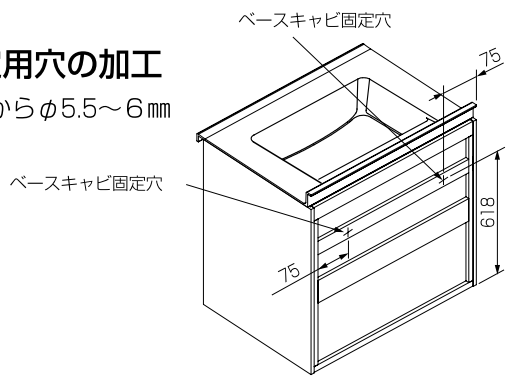
●組立例



ワンポイント
●キャビネットを壁に固定する際、扉がじゃまになるときは、扉を外してねじ固定することもできます。
●キャビネットの扉の着脱方法は、後述の「扉の取付方法」「扉の取外方法」をご覧ください。
●ねじ固定後は、必ず扉を取り付けてください。

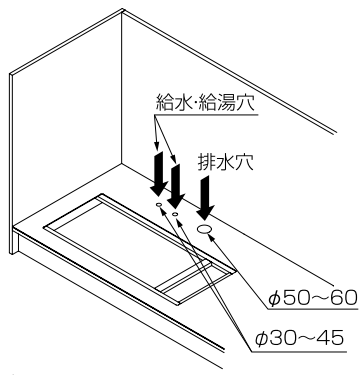
1）ベースキャビネット設置固定用穴の加工

ベースキャビネット背板の下穴を背板表面からφ5.5～6㎜のドリルで貫通してください。



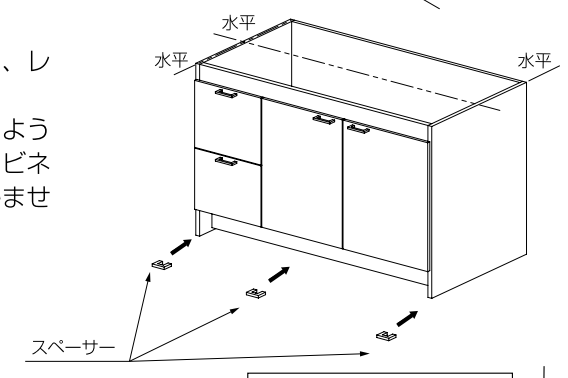
2）ベースキャビネットの給水・給湯管・排水管穴あけ

ベースキャビネットに現場の配管立上げ位置に合わせ、右図の排水管貫通穴をφ50～60㎜のホールソーで給湯水管貫通穴をφ30～φ45㎜のホールソーで穴あけしてください。



3）高さ調整・水平確認

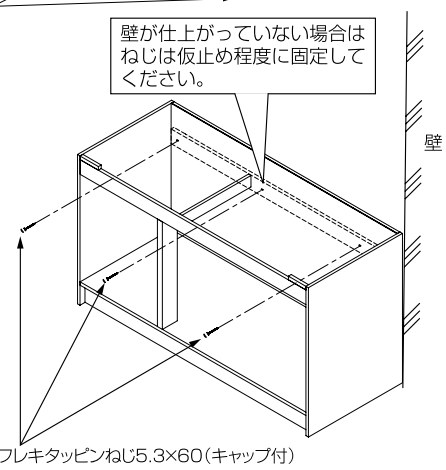
ベースキャビネットを取付場所に置き、レベル調整をします。
●水平器でキャビネットが水平になるように、またガタツキがないようにキャビネットの下に、同梱のスペーサーをかませ調節します。



4）キャビネットの壁固定

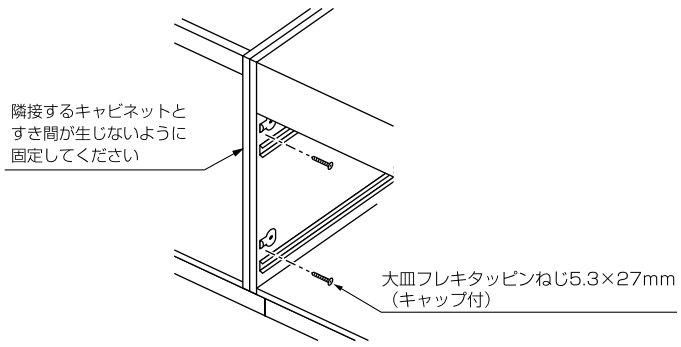
仮設置した各キャビネットの内側より付属のねじ（大皿フレキタッピン5.3×60）で壁面に固定してください。

ワンポイント
壁が万が一仕上がってない場合は、キャビネットのゆがみを防ぐため壁に沿って固定せず、仮止め程度（キャビネット基準）に固定してください。



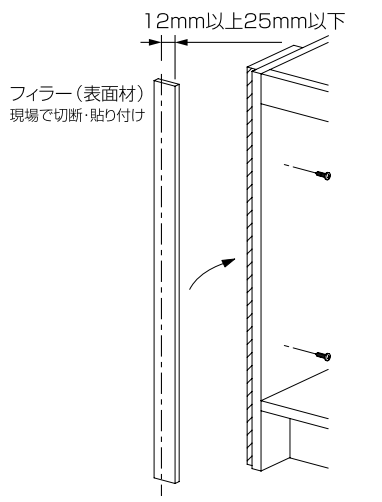
5）キャビネットの連結

隣接するキャビネットとねじ（大皿フレキタッピンねじ5.3×27mm）で連結します。
（蝶番の下方、上下2ヶ所またはレール上方、上下2ヶ所）



6）フィラーの取付け

付属の取付説明書に従い取り付けてください。
※必ずカウンターを取付ける前にフィラーを取り付けてください。

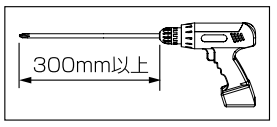


5-2. スマートポケットの場合のカウンターの取付け

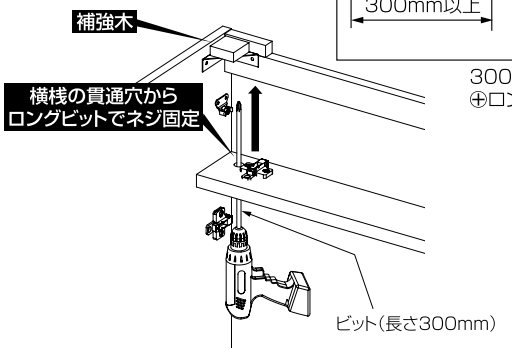
■スマートポケット時のカウンター取付方法

スマートポケット付キャビネットの場合は図のように横桟にビス固定用の貫通穴があいていますのでそこの穴を通して補強木にビスを固定してください。
（ビットの長さは300mm以上を使用してください）最後にビス固定用の貫通穴をキャップでふさいでください。

●準備するもの



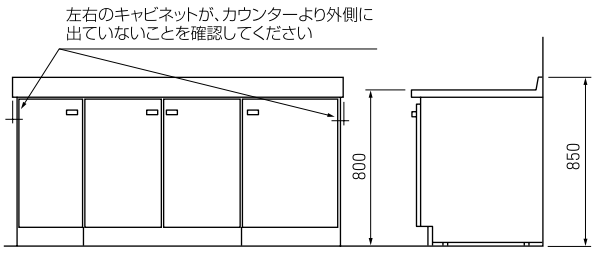
300mm以上
⊕ロングビット



5-3. カウンターの取付け

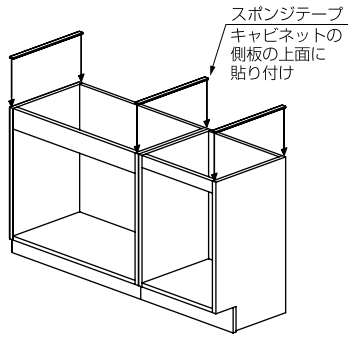
1）カウンターとキャビネットの固定

①カウンターを仮に設置し、キャビネットとの納まり、カウンター高さおよび水平を確認します。



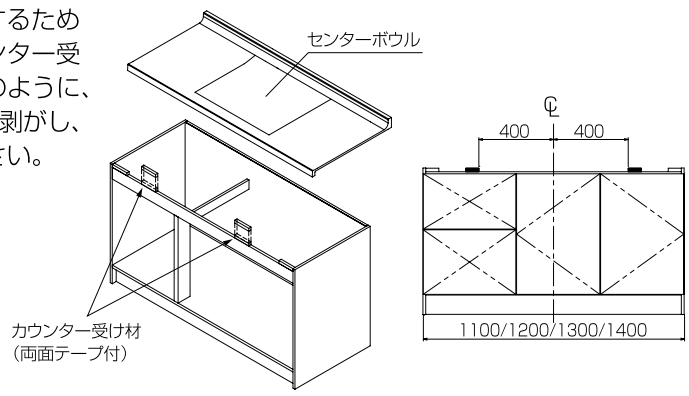
②LJカウンターの場合、カウンターをキャビネットに固定する前に、カウンターに同梱されているスポンジテープを貼りつけます。（最大3ヵ所）

（ベースキャビネットのみ設置の場合（2ケ所）
ベース片側にキャビネット設置の場合（3ケ所））



■センターボウルで間口1100～1400の場合のキャビネットの固定

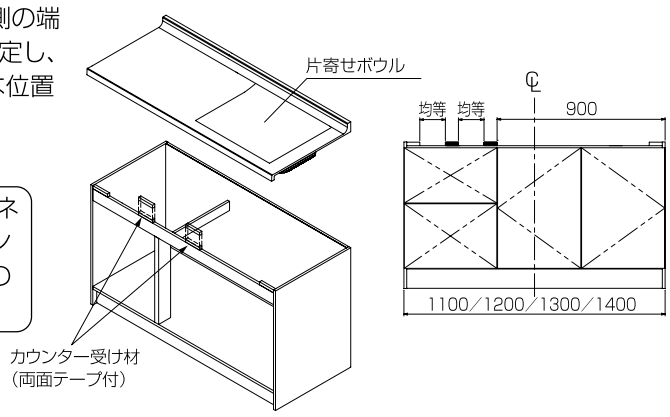
カウンターのたわみを防止するためにキャビネット同梱のカウンター受け材（60mm×2本）を下図のように、カウンター受け材の剥離紙を剥がし、下図の位置に固定してください。



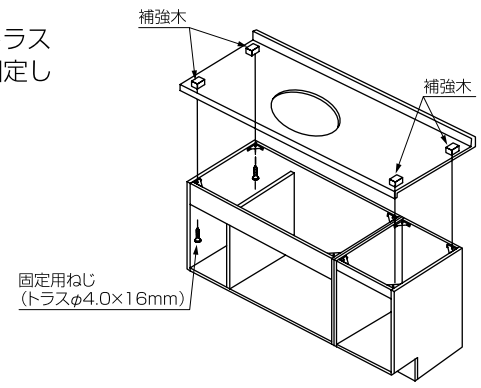
■片寄せボウルで間口1100～1400の場合のキャビネットの固定

片寄せボウルの場合はボウル側の端部から900の位置に受け材を固定し、もう1本は下図のように均等な位置に固定してください。

間口800～1000のキャビネットに同梱されているカウンター受け材は使用しませんので破棄してください。

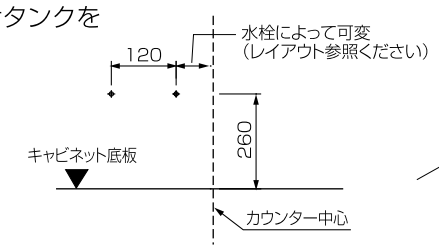


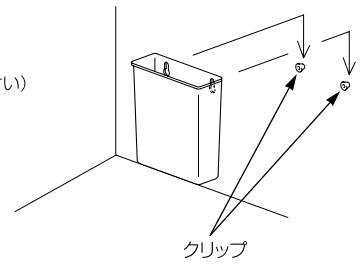
③ベースキャビネットの内側下方より、ねじ（トラスΦ4.0×16mm）でカウンター裏の補強木に固定します。



5-4. 水受けタンクの取付け（シャワー水栓の場合）

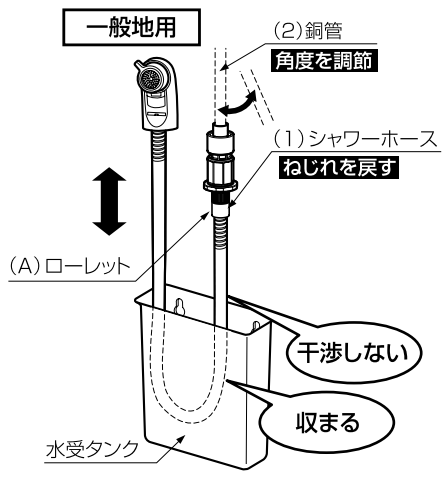
キャビネット背板のガイド穴2ヶ所に付属のクリップを差し込み、水受けタンクを取り付けます。



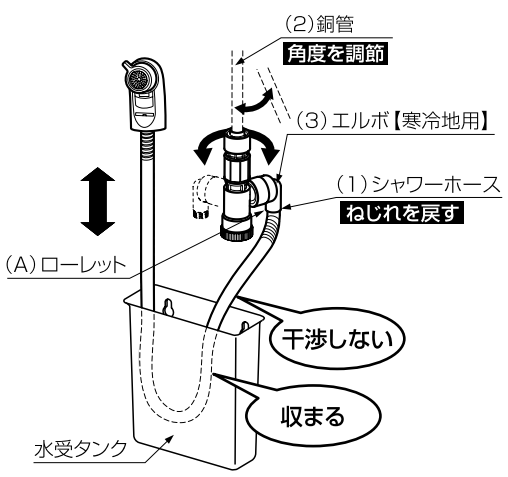


水栓金具のホースをタンクに収めてください。ハンドシャワーを数回出し入れし、シャワーホースが止水栓に干渉しないか、また、シャワーホースが水受けタンクに収まるか確認してください。

水受タンクの場合



寒冷地用



ワンポイント

ホースがねじれた状態で水受けタンクに収めると、水栓金具のシャワーヘッドの出し入れ操作の時に、タンクからホースが出てしまうおそれがあります。その場合は、下記の調整をしてください。

（1）（A）のローレットねじを回し、ホース全体のねじれを戻した後、プライヤーで締める。
（2）銅管の角度を調節する。
（3）エルボの向きを調節する。（寒冷地仕様のみ）

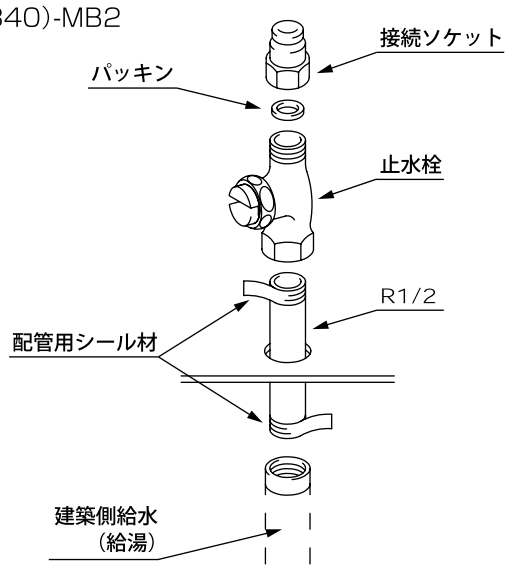
5-5. 水栓金具・止水栓の取付け

止水栓はメンテナンス・流量調整に必要なため必ず取付けてください。

※止水栓は別途手配です。水栓金具の給水・給湯ホースの保護キャップを外し、ホースを手で持ちながら止水栓にスパナ(対辺23)などで接続します。

■床給水の場合

（例）LF-3SDK(340)-MB2



5-6. 排水金具・排水トラップの取付け

⚠ 注意

工具を使用しての過剰な力での締め付けはしないでください。（980N・cmが目安です。）

※洗面器や排水口部分が破損し、漏水を引きおこす恐れがあります。

⚠ 注意

ナット類は手でしっかりと締め付けてください。

※締め付けが不十分だと漏水を引きおこすおそれがあります。

⚠ 注意

金属製排水トラップの場合は、工具で締め付けを行ってください。

■ポップアップ弁の取付け

①レリース本体固定ナットをゆるめ、台座からレリースを外します。

※レリース先端を折ったり曲げたりしないでください。

②カウンターに台座を手締めで固定します。

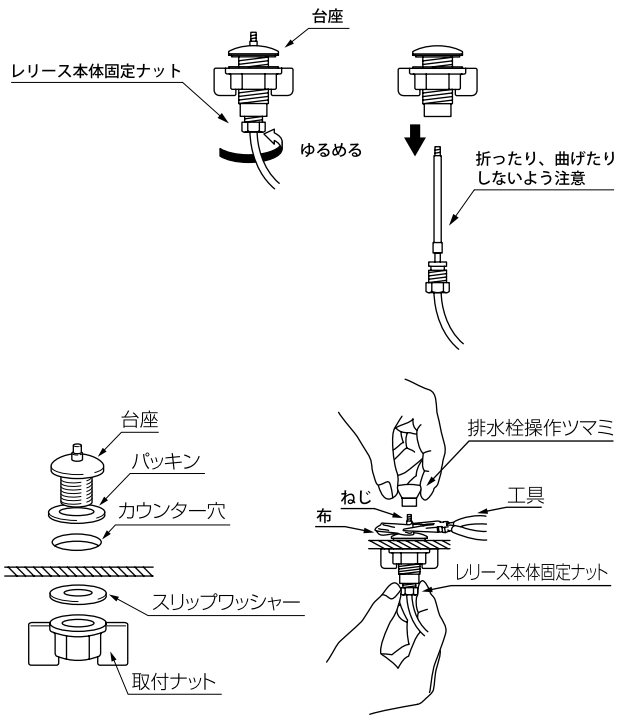
③台座にレリース本体を差し込んだら、レリース本体の軸を引いた状態でレリース本体の軸の先端に排水栓操作ツマミ（小袋に同梱）を取り付けます。

（締付けトルク200N・cm {20kgf・cm} 以上）

※軸を工具で固定する場合は、軸がキズつかないよう、ウエス等を巻いて保護してください。

※ねじには乾式の接着剤（赤）が塗布してあります。ツマミを取付けると接着剤が硬化し始めますので、一度締めたツマミは外さないでください。

④洗面ボウルの排水口に排水器具本体を取り付け、排水栓を設置します。



⚠ 注意

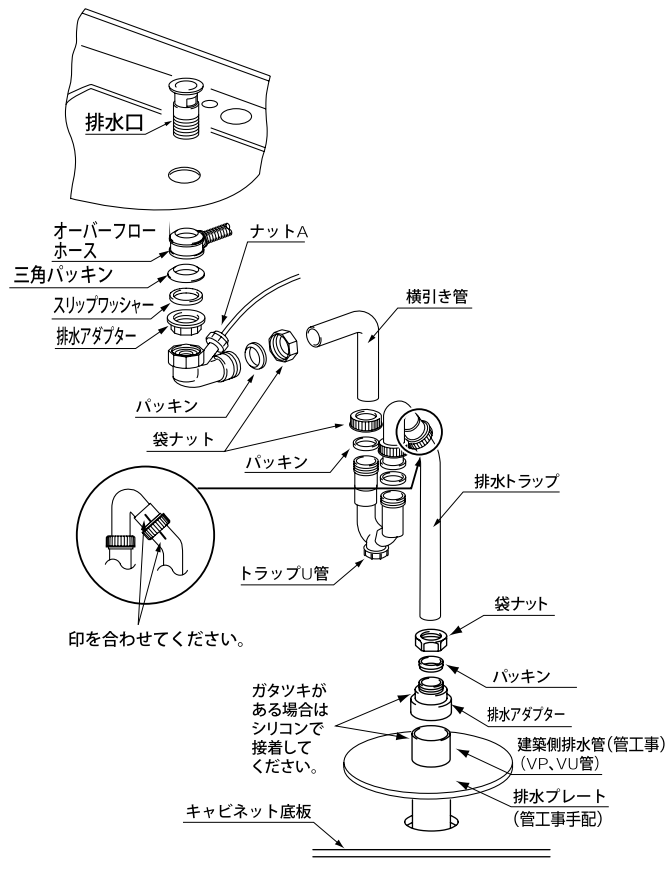
●強く締めすぎないようにしてください。

※排水口部分が破損し、漏水を引きおこすおそれがあります。

●ナット類は手でしっかりと締め付けてください。

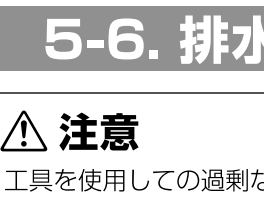
※締め付けが不十分だと漏水を引きおこすおそれがあります。

■床排水



⚠ 注意

パッキンの向きに注意してください。



・横引き管は奥に当たるまで差し込んでください。

・袋ナットはしっかり締めてください。

※漏水し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

⚠ 注意

●排水トラップは、印を合わせて取り付けてください。

※排水能力が悪くなります。

⚠ 注意

横引き管が逆傾斜にならないように取り付けください。

※排水能力が悪くなります。

①洗面器に排水器具を図のように取り付けます。

②横引き管を図のように取り付けます。

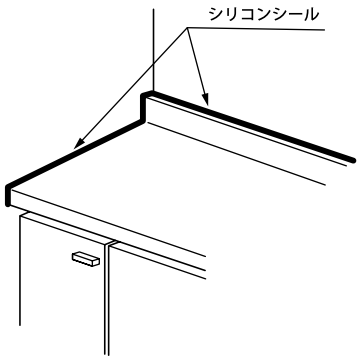
※差込部の最後まで入れてください。

③操作ボタン部をカウンターの水栓金具面に取り付けます。

④操作ボタン部の筒内にレリース先端部（スプリング装着部）を挿入させ、袋ナットで締め付けます。

5-7. カウンター周囲シール

カウンターと壁との合せ部をシリコンシールします。



6. 取付後の確認

■キャビネット本体

○取付ねじが十分に締まっていること

○ゆるみがないこと

○ガタつきがないこと

※ガタつきがある場合はねじ位置をかえて取り付け直してください。

○扉がそろっていること

※そろっていない場合は、後述の「扉の調節」で調節します。

■吐水量、排水量

○洗面器の排水栓を閉じて水を満水にし、吐水させて洗面器から水があふれないよう(オーバーフロー能力の範囲以内）水側、湯側の止水栓の開閉をして流量の調節をします。不用意に全開した場合の水の飛散を予防するため、全開時に8L/分を超える場合は湯水の止水栓を調節してください。目安は市販の洗面器（容量3L）をいっぱいにするのに約25秒です。

○排水栓を開け、水を一度に排出し、トラップ、排水管の各接続部からの漏水のないことを確認します。

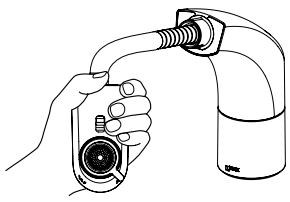
お願い

取付後は洗面器表面を養生して、後の工事などでキズが付かないようにしてください。

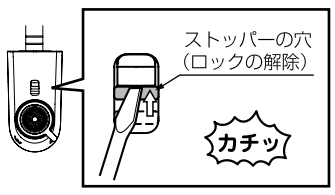
※洗面器にキズが付くと、補修しても完全に元の状態には戻りません。

■吐水口の清掃

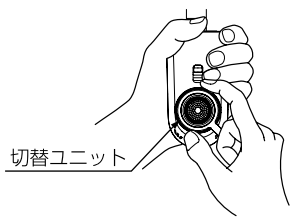
（1）ハンドシャワーを引き出し、裏向きにしてください。



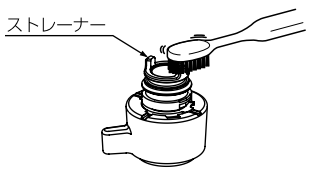
（2）小型のマイナスドライバーでストッパーの穴をスライドさせて、ロックを解除します。



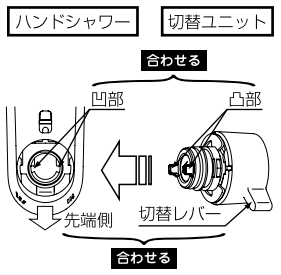
（3）切替ユニットを引っ張り、取り外してください。



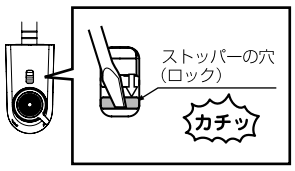
（4）取り外した切替ユニットのストレーナーを、歯ブラシ等で掃除してください。



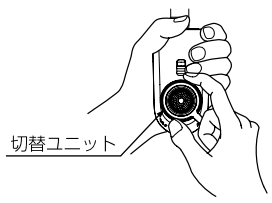
（5）切替ユニットの向きに注意しながら取り付けてください。
※ハンドシャワーの凹部と切替ユニットの凸部を合わせて、しっかりと差し込んでください。
※切替レバーが、ハンドシャワーの先端部になるようにしてください。



（6）2の逆の要領で、ストッパーに穴をスライドさせてロックします。
※固くてスライドできなかれば、5に戻り、切替ユニットをしっかりと差し込んでからやり直してください。



（7）切替ユニットを引っ張って、外れないことを確認してください。



※詳細は、水栓金具に同梱の取付・設置説明書をご確認ください。

6. 調整方法

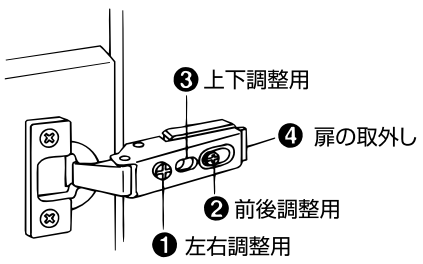
6-1. 扉の調整方法

■ベースキャビネットの扉

扉は左右や前後のズレがないように取付けられています。微調整が必要なときは丁番の❶・❷・❸のネジでおこないます。

扉を取外したいとき

ワンタッチ丁番の尾の❹部分（矢印部）を下から押上げると簡単に外れます。取外す際は、扉をしっかり支えながらおこない、扉やキャビネットを傷付けないよう気をつけてください。

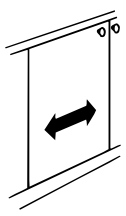


⚠ 注意

工事終了後、扉の傾き、ガタつき、丁番のゆるみがないことを必ず確認してください。
使用中に扉が落下して、けがをするおそれがあります。

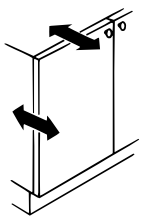
●左右調整

❶のネジを右に回すと丁番側に移動し、左に回すと丁番の反対側に移動します。



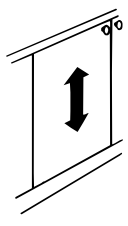
●前後調整

前後の開きは❷のネジを緩めて座金の位置を前後に動かし、扉の前後を調整します。



●上下調整

上下に扉が片寄っている場合は、❸のネジを緩めて座金の位置を調整します。
（上下2本の丁番を調整してください）

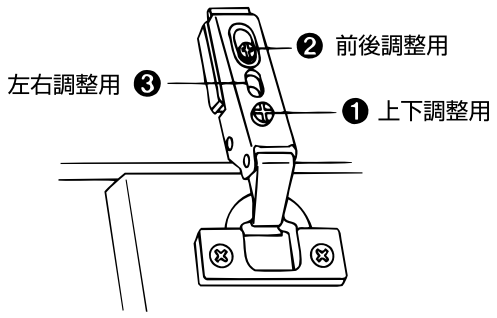


●調整の確認

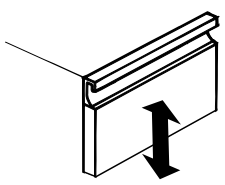
扉調整後は、すべての丁番の❷と❸のネジが締めつけられていることを確認してください。

■ベースキャビネットのスマートポケットの扉

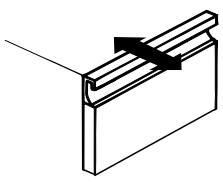
●扉の位置は前後、左右共に調整済みですが、微調整をおこなう時は、❶、❷、❸のねじでおこなってください。



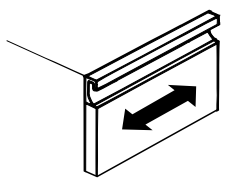
●扉の上下調整
❶のねじを左に回すと丁番側に移動し、右に回すと丁番と反対側に移動します。



●扉の前後調整
前後調整は❷のねじでおこなってください。



●扉の左右調整
上下の扉が片寄っている場合は左右の丁番共に❸のねじを緩めて丁番の位置を調整してください。

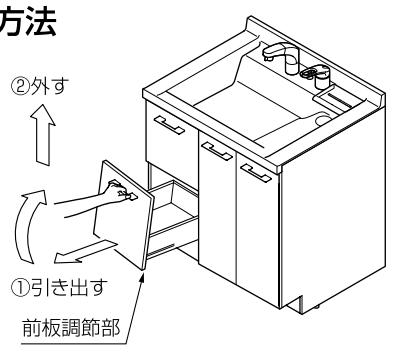


6-2. 引出しの調節方法

■スチール製引出し（白色）タイプの調整方法

●引出しの取外し方法
①引出しを最後まで引き出します。
②引出しを持ち上げて外します。

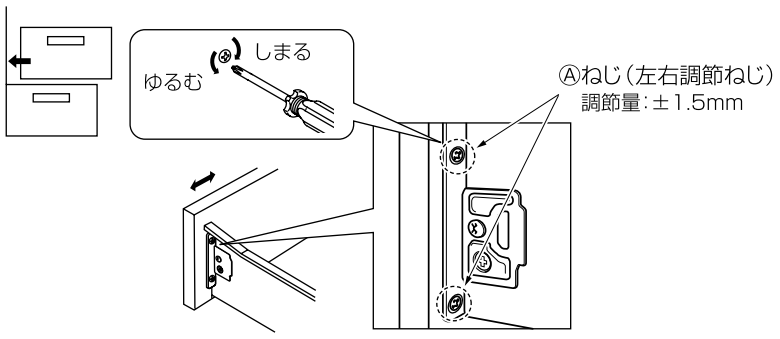
●引出しの取付け方法
①と逆の手順で取り付けます。



●引出しの調節方法

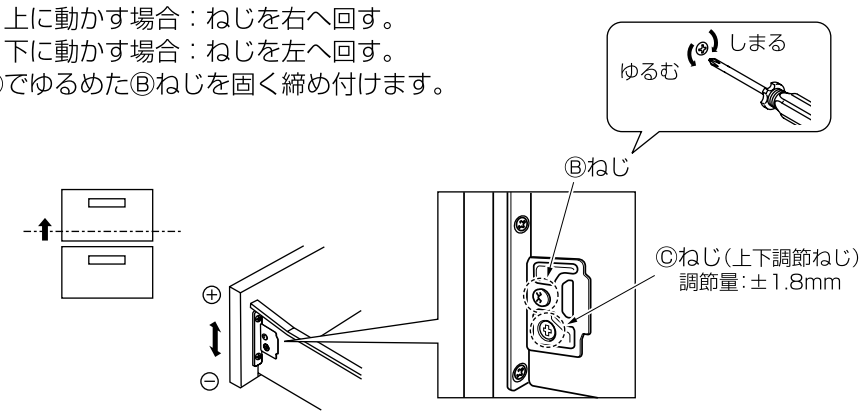
●引出し前板が左右にずれているとき

① Ⓐねじを4ヶ所すべてゆるめます。
② 引出し前板を左右に動かして調節します。
③ ①でゆるめたⒶねじを固く締め付けます。



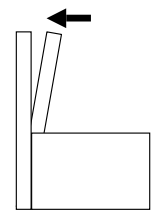
●引出し前板が上下にずれているとき

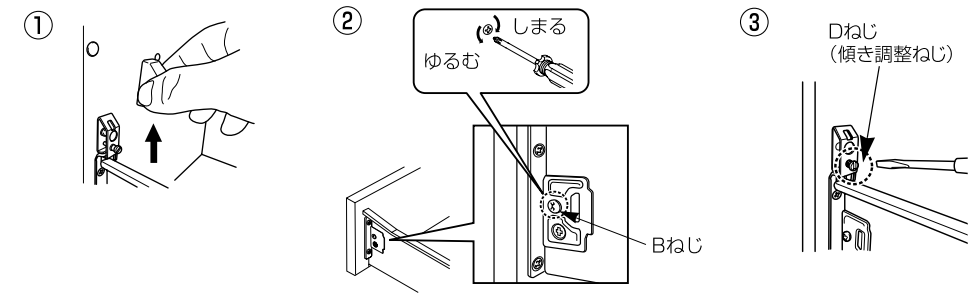
① Ⓑねじをゆるめます。（左へ回す）
② Ⓒねじを回して調節します。
　上に動かす場合：ねじを右へ回す。
　下に動かす場合：ねじを左へ回す。
③ ①でゆるめたⒷねじを固く締め付けます。



■前板の傾き調整

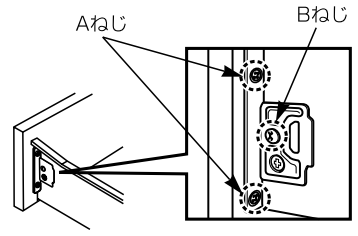
①カバーを上に引き抜いて外します。
②Bねじをゆるめます。（左へ回す）
③Dねじを回して調整します。
　手前に倒す場合：ねじを右に回す
　後ろに倒す場合：ねじを左に回す
④② でゆるめたBねじを固く締め付けます。
⑤① で外したカバーをはめ込みます。





⚠ 注意

調整後、AねじBねじが固く締まっていることを確認してください。
※ねじがゆるんでいると、引出前板が外れて落下し、ケガをするおそれがあります。



●引出しの取付け

取外しと逆の手順に取り付けます。

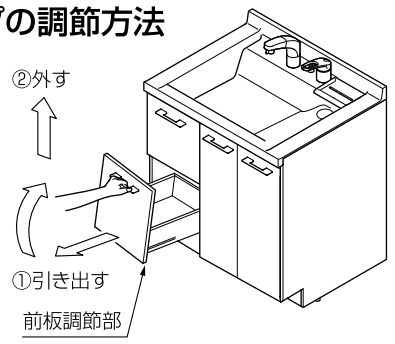
■スチール製引出し（アイボリー色）タイプの調節方法

●引出しの取外し方法

①引出しを最後まで引き出します。
②引出しを持ち上げて外します。

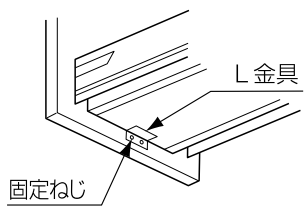
●引出しの取付け方法

①と逆の手順で取り付けます。



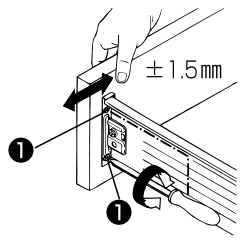
●鏡板の左右・上下・あおり調整する前に

L金具の固定ねじを緩めてください。調整後、締付けてください。



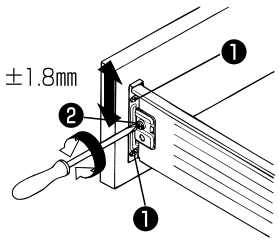
●鏡板の左右調整

引出し調整部の❶のねじを回して鏡板の左右位置調整をおこなってください。



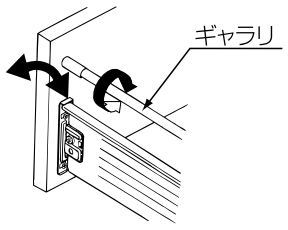
●鏡板の上下調整

調整部❶、❷のねじを緩め、鏡板上下の位置調整をおこなってください。



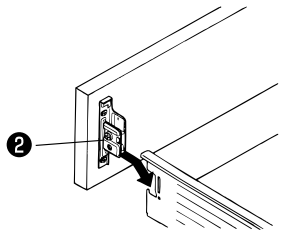
●鏡板の前後傾き調整（ギャラリのある場合）

引出し左右のギャラリを回して鏡板前後の傾きを調整してください。



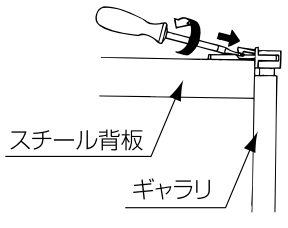
●鏡板の取外し

引出し調整部❷のねじを緩めて鏡板を取外してください。

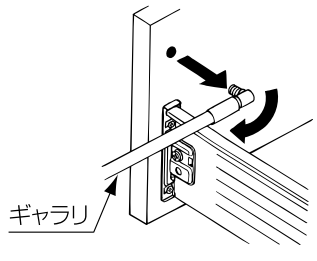


●ギャラリの取外し

引出しのスチール背板に引っ掛けてあるギャラリの爪をマイナスドライバーで外してください。



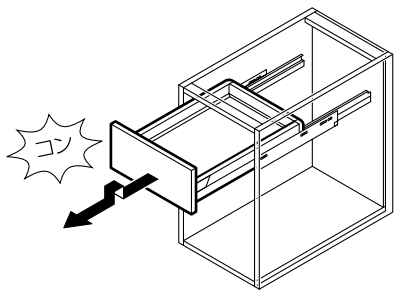
鏡板のダボ穴に差込まれているギャラリを図のように折曲げ、鏡板からギャラリを外してください。



■スチール製引出し（グレー）タイプの調節方法

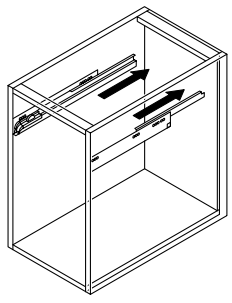
●引出しの取外し方法

引出しを止まるところまで引出し、一度少し上に持ち上げ（コンという音がしてロックが外れます）、さらに手前へ引出します。

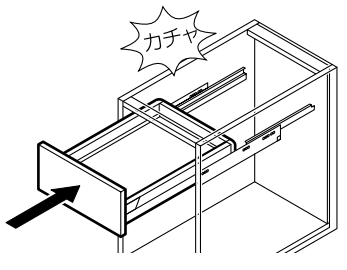


●引出しの取付け方法

①ユニット本体側の受けレールを奥まで押し込みます。



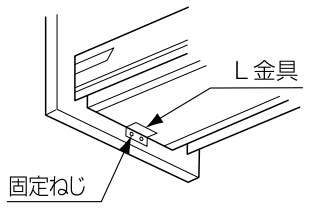
②引出しを受けレールに載せ、奥まで押し込みます。その際、カチャと音がしてロックされます。
※取り付けた後は、数回引出しを開閉させ正確に取り付けられている（ガタつき異音がしないか）ことを確認してください。



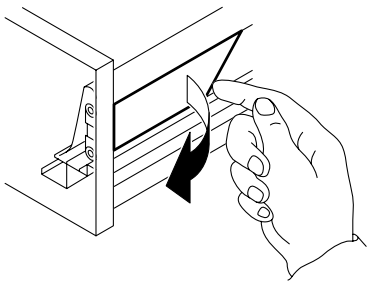
●引出しの調節方法

①調節前の準備

引出し前板裏面と引出し底板の間、Ｌ型金具が取り付けてあります。引出し調節（前板の傾き調節以外）を行う際は、必ず固定ねじをゆるめて（金具が動く程度）から行ってください。
また、調節完了後は必ず固定ねじを締め付け直してください。



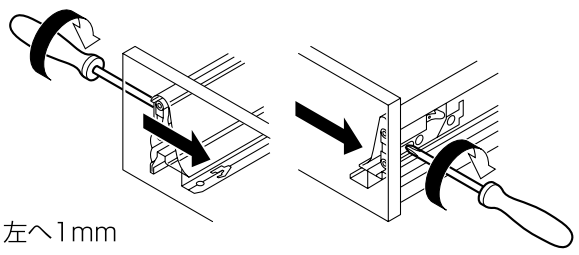
②引出し本体横の化粧カバーを取り外します。



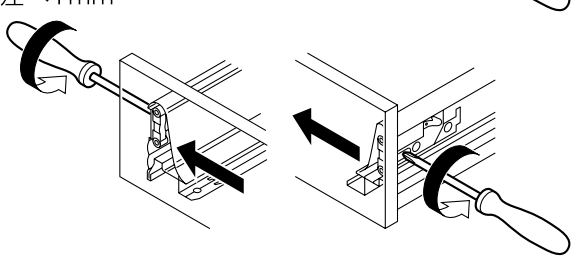
③-1左右の調節

図のように、左右調節ねじを回して調節します。
右へ移動する場合：ねじを右へ回す
左へ移動する場合：ねじを左へ回す
※調節は引出し本体の左右共に行ってください。
※調節範囲：左右方向へ各１mm(計2mm)程度

右へ2mm

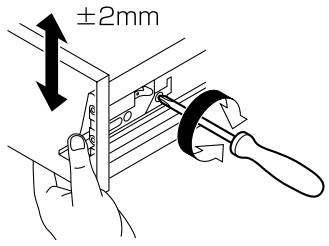


左へ1mm



③-2 上下の調節

図の部分のねじを回します。
引出し前板の上下位置を調節します。
※調節範囲：上下方向へ各２mm（計4mm）程度



③-3 3前板の傾きの調節（サイドギャラリー付き引出しのみ対応可能）

図のように、サイドギャラリー（パイプ部）を回し、前板の傾きを調節します。
前板を手前へ倒す場合：左へ（前板正面から見て）回す
前板を後方へ倒す場合：右へ（前板正面から見て）回す
※サイドギャラリー後方の樹脂部品（グレー色）のねじぶにすき間が残りますが、このすき間は調節します。